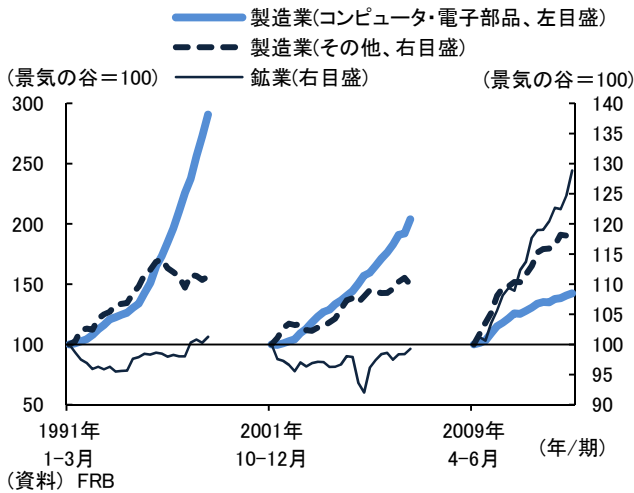


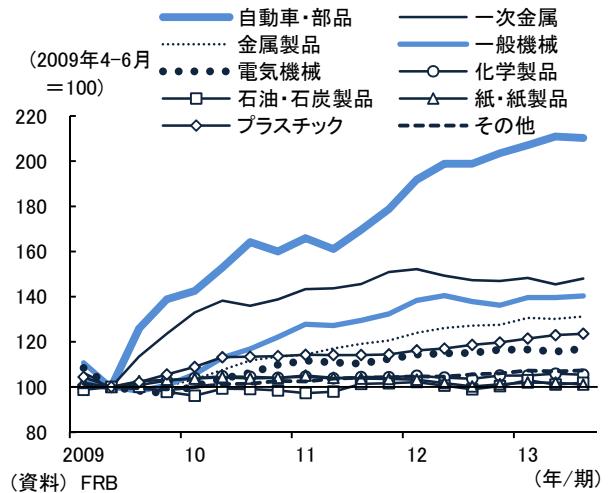
オールド・エコノミーが牽引する米国製造業の復活 —シェール革命の恩恵は依然限定的ながら、今後の波及に期待—

- (1) 米国では、2013年11月に、鉱工業生産がリーマン・ショック前のピークを上回る水準まで回復。業種別にみると、今景気回復局面では過去に比べ、シェール革命の恩恵を受ける鉱業の回復が顕著にみられる一方、コンピュータ関連の回復は限定的（図表1）。また、コンピュータ関連を除く製造業、いわゆる「オールド・エコノミー」が堅調に推移。
- (2) オールド・エコノミー回復の背景としては、①シェール革命によるエネルギーコストの低下、②新興国と比べた米国の相対的な労働コストの低下、③米国における研究開発・イノベーション関連インフラの充実、などが指摘可能。
- (3) このうち、シェール革命については現時点で米国製造業の復活への寄与は限定的。すなわち、製造業生産を業種別にみると、牽引しているのは自動車・部品であり、シェール革命の恩恵を受けやすいと考えられる化学製品、石油・石炭製品、プラスチック、紙・紙製品などの生産に顕著な増加は看取されず（図表2）。
- (4) もっとも、先行きを展望すると、以下2点を背景に、シェール革命による製造業へのプラス効果が徐々に波及していく見通し。
第1に、電気料金の低位安定。米国ではシェール革命に伴う安価な天然ガスを背景に、今後も発電コストが低水準で推移すると見込まれ、化学、鉄鋼、アルミ、製紙などの電力を多く利用する業種の対外競争力向上に寄与（図表3）。
第2に、化学業界の国内設備投資の本格化。シェールガスを原料とするエチレン工場などの建設・操業は、今後数年にかけて本格化が見込まれ、化学製品を原料として利用する幅広い製造業に、シェール革命の恩恵波及が期待可能（図表4）。

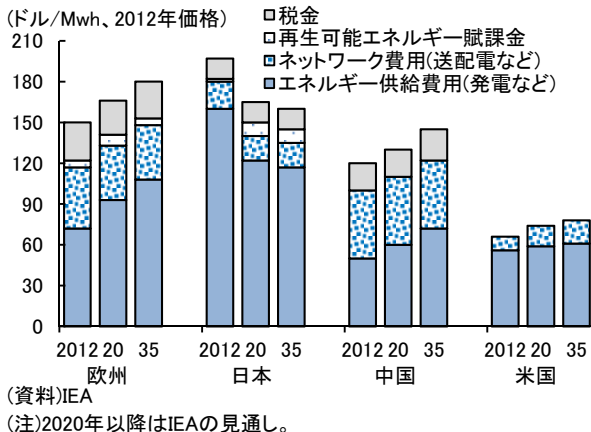
(図表1) 景気回復局面毎の業種別鉱工業生産



(図表2) 業種別製造業生産



(図表3) 主要国の電気料金推移



(図表4) 化学業界の設備投資計画

